

学習指導要領	都立田園調布高校 学カスタンダード
(1) 地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有効性に気付かせるとともに、地理的技能を身に付けさせる。 ア 地理情報と地図 地球儀の活用、様々な時代や種類の世界地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえさせるとともに地図の有用性に気付かせ、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身に付けさせる。 イ 地図の活用と地域調査 直接的に調査できる地域の地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身に付けさせる。 (2) 世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、現代生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察させるとともに、現代世界の諸課題について地球的視野から理解させる。 ア 自然環境 世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活などのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。	〔位置、方位、時差〕 ・地球上の任意の2地点の緯度・経度をもとにして、2点間の位置関係（南北および東西）を考えるとともに、時差を求めることができる。 〔地球儀、世界地図〕 ・古代バビロニア・古代ギリシア・中世ヨーロッパの各時代の世界図を作成された順に並べることができる。 ・メルカトル図法で作成された世界地図において、任意の2地点を結ぶ直線が2点間の最短距離を示さないこと、面積が高緯度になるほど拡大されていることを理解する。 ・統計数値をいくつかの階級に区分し、階級ごとに異なる色彩を用いて地図にあらわすことで、分布を示す統計地図を作成できることを知る。 〔地形図の読み方〕 ・国土地理院発行の地形図において、提示された縮尺を用いて実際の距離を求めることができる。 ・地図記号を読み取り、田・畑・果樹園・桑畑などの彩色を変えることで土地利用図を作成できることを理解する。 ・地形図を同じ地域の旧版地形図と比較することで、地域の変容を調べられることを知る。 〔自然環境と人間生活〕 ・新期造山帯が地震や火山の多い地域であることがわかり、プレートテクトニクス理論におけるプレート境界を3種類に分類できることを知る。 ・気温の水平的分布の特徴を、緯度や水陸分布と合わせて考察することができる。

学習指導要領		都立田園調布高校 学カスタンダード
イ 資源、産業 世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通、消費などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観させる。		・大気の大循環のしくみの概略を知り、ケッペンの気候区分の概要を理解する。 ・砂漠化は砂漠の中心でなく、周辺部で起きている問題であることを理解する。
		〔農林水産業〕 ・世界の農業が形態やおもな農産物によって自給的、商業的、企業的の3つに分類できることを知る。 ・米と小麦の統計資料や主題図を見て、おもな生産国、輸出国、貿易量を比較し、両者の性格の違いを考えることができる。 〔鉱工業〕 ・輸送費をもとに原料指向型工業と市場指向型工業の立地を考察できる。 ・アジアNIEs、中国、ASEAN諸国など、時代によって、工業生産力を大きく伸ばした国や地域が異なっていることを理解する。 〔資源・エネルギー、食料問題〕 ・主題図や統計資料をもとに、エネルギー資源や鉱産資源の生産地には偏在性があり、消費地にも特性があることを知る。 ・主題図や統計資料をもとに、発展途上国で食料不足や飢餓が起こっていることを理解する。
	ウ 人口、都市・村落 世界の人口、都市・村落に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。	〔人口、都市・村落〕 ・高い人口増加率は、出生率の高い多産少死型の人口動態を示す国や地域で見られることを理解する。 ・発展途上国における急速な都市人口の増加は、農村から都市への急速な人口移動によるものと理解する。 ・先進国が出生率の低下により少子高齢化が進んでいることがわかる。
エ 生活文化、民族・宗教 世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察させるとともに、現代世界の民族、領土問題を大観させる。		〔宗教・民族と人間生活〕 ・世界各地に伝播している宗教が世界宗教と民族宗教に分けられることを知る。 ・領海の外側に排他的経済水域が定めることが認められていることがわかる。 ・同じ国の中で異なる言語を使う民族が存在する場合、複数

	学習指導要領	都立田園調布高校 学カスタンダード
(3) 現代世界の地誌的考察	現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身に付けさせる。 ア 現代世界の地域区分 現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の疑念、地域区分の意義を理解させるとともに、その有用性に気付かせる。 イ 現代世界の諸地域 現代世界の諸地域を取り上げ、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や地球的課題について理解させるとともに、地誌的に考察する方法を身に付けさせる。	の言語を公用語としている国がある例を理解している。 ・国境には自然的国境や人為的国境があることを理解する。 また、日本固有の領土である北方領土問題と竹島、尖閣諸島の現状について歴史的経緯を踏まえて理解する。 〔世界の地域区分〕 ・地域区分の方法として、自然環境や文化的な特色などが指標に使えることを知る。 ・ユーラシア大陸をヨーロッパとアジアに分けて考えることができ、かつアジアを東・東南・南・西・中央の5地域に区分し、各地域の関連性や共通性を理解する。 ・アフリカを民族的、文化的な相違から北アフリカと中南アフリカに区分できる。 〔世界の諸地域、東アジア〕 ・例えば、近年の中国の経済発展と社会の変化を、1970年代後半の改革開放政策導入から1980年代、冷戦終結後の1990年代、2000年代の急激な成長期に分けて理解する。 ・例えば、中国の人口問題には、将来的な高齢化社会の問題が含まれることを理解する。また、中国には多くの少数民族が居住し、一部に民族問題が起きていることを理解する。 ・例えば、朝鮮半島の歴史を踏まえた上で韓国と北朝鮮の現状を理解する。 〔世界の諸地域、東南アジア〕 ・例えば、東南アジアは多様な民族構成や宗教構成となっていることを歴史的な経緯を含めて理解する。 ・例えば、東南アジアの農業形態は、原始的な焼畑農業や植民地時代からのプランテーション、「緑の革命」以降の近代的な稲作など様々なものがあることを理解する。 ・例えば、ASEANの成立の背景や、域内の工業化の進展・政治的安定にASEANが大きく寄与したことを理解する。

学習指導要領	都立田園調布高校 学カスタンダード
	〔世界の諸地域、南アジア〕 ・例えば、南アジアは東南アジア同様、多様な民族構成や宗教構成となっていることを歴史的背景を含めて理解する。 ・例えば、インドは言語や宗教が多様で、カースト制度などの伝統的な制度や価値観が残っていて様々な社会問題にも発展していることを理解する。 ・例えば、独立後のインドの鉱工業の近代化について、地下資源分布と重ね合わせて理解する。 〔世界の諸地域、西アジア・中央アジア・北アフリカ〕 ・例えば、西アジアや北アフリカにおいて、カナートなど地下水路を導入して乾燥気候を克服してきたことを理解する。 ・例えば、この地域の原油資源を守ろうとして石油輸出国機構（OPEC）が結成され、いわゆる国際石油資本（メジャー）から利権を産油国に取り戻すようにした流れを理解する。 ・例えば、中央アジアの国々はかつてソビエト連邦時代はロシアの支配を受けており、20 世紀末頃に相次いで独立した後も、社会的な影響が見られることを理解する。 〔世界の諸地域、中南アフリカ〕 ・例えば、アフリカの経済発展を阻む要因の一つとされる民族対立が、植民地時代の列強による線引きを背景にもつことを理解する。 ・例えば、モノカルチャー経済構造が新植民地主義と呼ばれる所以を理解する。 ・例えば、工業発展の歴史的背景や、地下資源に恵まれていることを理解する。 〔世界の諸地域、ヨーロッパ〕 ・例えば、ヨーロッパ諸国がEU という経済的、政治的統合に向かっていることを理解する。 ・例えば、大半の地域がキリスト教文化を共通のアイデンティティとしているヨーロッパでも、東西南北それぞれにおいて民族・宗教などに一定の地域性が見られることや、一般的傾向に合わない事例があることを理解する。 ・例えば、ヨーロッパの産業は、その多くが産業革命

学習指導要領	都立田園調布高校 学カスタンダード
ウ 現代世界と日本 現代世界における日本の国土の特色について、多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望させる。	以来炭田立地の工業地域として発展してきたが、近年は域外原料への依存度の高まりとともに産業の中心地域が変化していることを理解する。 〔世界の諸地域、ロシアとその周辺諸国〕 ・例えば、ロシアの国土について、広大な面積、厳しい自然環境など具体的データに基づいて理解する。 ・例えば、ロシアの民族問題を理解する。 ・例えば、ソ連崩壊から現在に至るまでのロシアの経済状況の変化について理解する。 〔世界の諸地域、アングロアメリカ〕 ・例えば、アメリカの農業が、気候環境をもとにして東西に地域区分できることを説明できる。 ・例えば、アメリカの工業や科学技術が世界のなかで大きな存在であることを理解する。 ・例えば、アメリカ、カナダが多くの移民により成立する多民族国家であることを移民の出身地と関係付け理解する。 〔世界の諸地域、ラテンアメリカ〕 ・例えば、ラテンアメリカ諸国の人種、民族構成を理解する。 ・例えば、アルゼンチンの大土地所有制とその農業近代化への影響を理解する。 ・例えば、ブラジルの経済発展をモノカルチャー経済からの脱却と関連付けて理解する。 〔世界の諸地域、オセアニア〕 ・例えば、オーストラリアが、イギリスからアジア太平洋重視に変化したことを理解する。 ・例えば、オーストラリアやニュージーランドの経済が農産物や資源の輸出に依存してきたことを歴史的背景を踏まえて理解する。 ・例えば、太平洋には小さな島々から成り立つ国があり、地球温暖化との関連を踏まえ理解する。 〔我が国の自然環境の特色と自然災害〕 ・日本の自然環境の特色を踏まえ、過去に起きた多くの自然災害を理解する。 〔我が国の産業の発展〕 ・日本の産業構造の変化を歴史的経緯を踏まえて理解する。 〔我が国の抱える諸課題〕 ・日本のエネルギー問題について、資源や環境問題と合わせて理解する。

